

スマートシティの創出・全国展開 (前回の補足資料)



令和元年12月9日

内閣府 政策統括官（科学技術・イノベーション担当）

社会資本整備関連「スマートシティ」について

12/9（月） 一体改革推進委員会の論点

「都市間でのデータ利活用促進に資する相互運用性等を確保したオープンな共通アーキテクチャの構築に関する当面の取組と目標」

● 現状

- スマートシティは地方再生に重要。先進自治体が独自にシステム構築を進めるも、以下が問題。
 - ① **ベンダー間の制約**： システムの仕様が異なり、相互接続や乗換が容易でない
 - ② **分野間の制約**： 分野ごとの独自仕様や制約があり、データの共有が困難
 - ③ **都市間の制約**： データの相互利活用が困難

● 取組

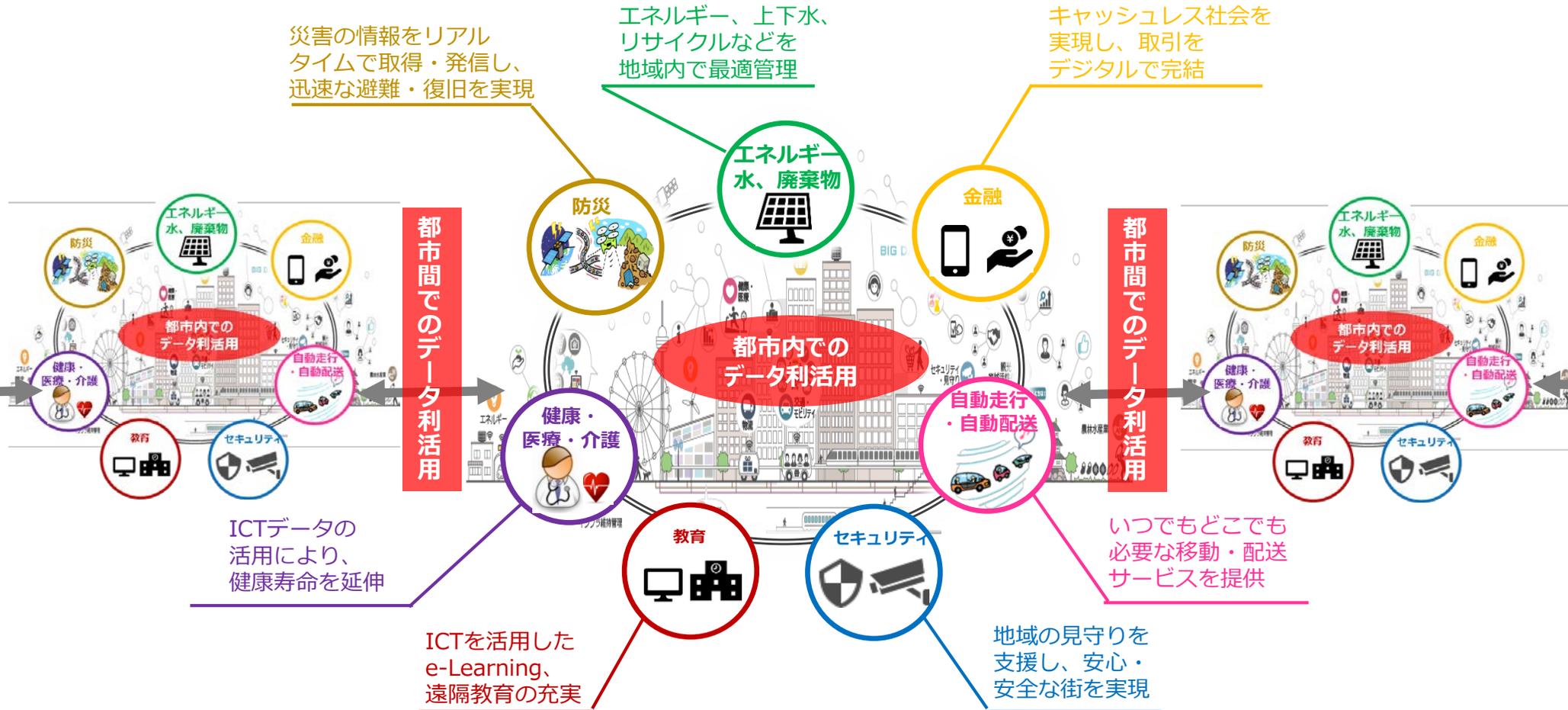
- データの相互運用性や拡張性を高めるため、以下を推進
 - ① **共通アーキテクチャの構築**による、各ベンダー仕様間の接続方式標準化、公開型APIの設計
 - ② **分野間データ基盤の整備**による、各分野でのデータの流通性向上
 - ③ **官民連携プラットフォームの運用**による、都市間での経験共有や共通課題の解決
- 他方、データセキュリティやプライバシーの問題、地域独創性の確保やデータ保有権 等 検討が必要

● 将来目指す姿

- 上記課題を解消し 早期のSociety5.0の社会実装
- 日本の統合的スマートシティの**国際展開、都市間連携のイニシアチブ**確保
- 日本のスマートシティのフィロソフィー（文化・伝統・価値・自然との調和（里山等））の提唱・反映

スマートシティの将来像

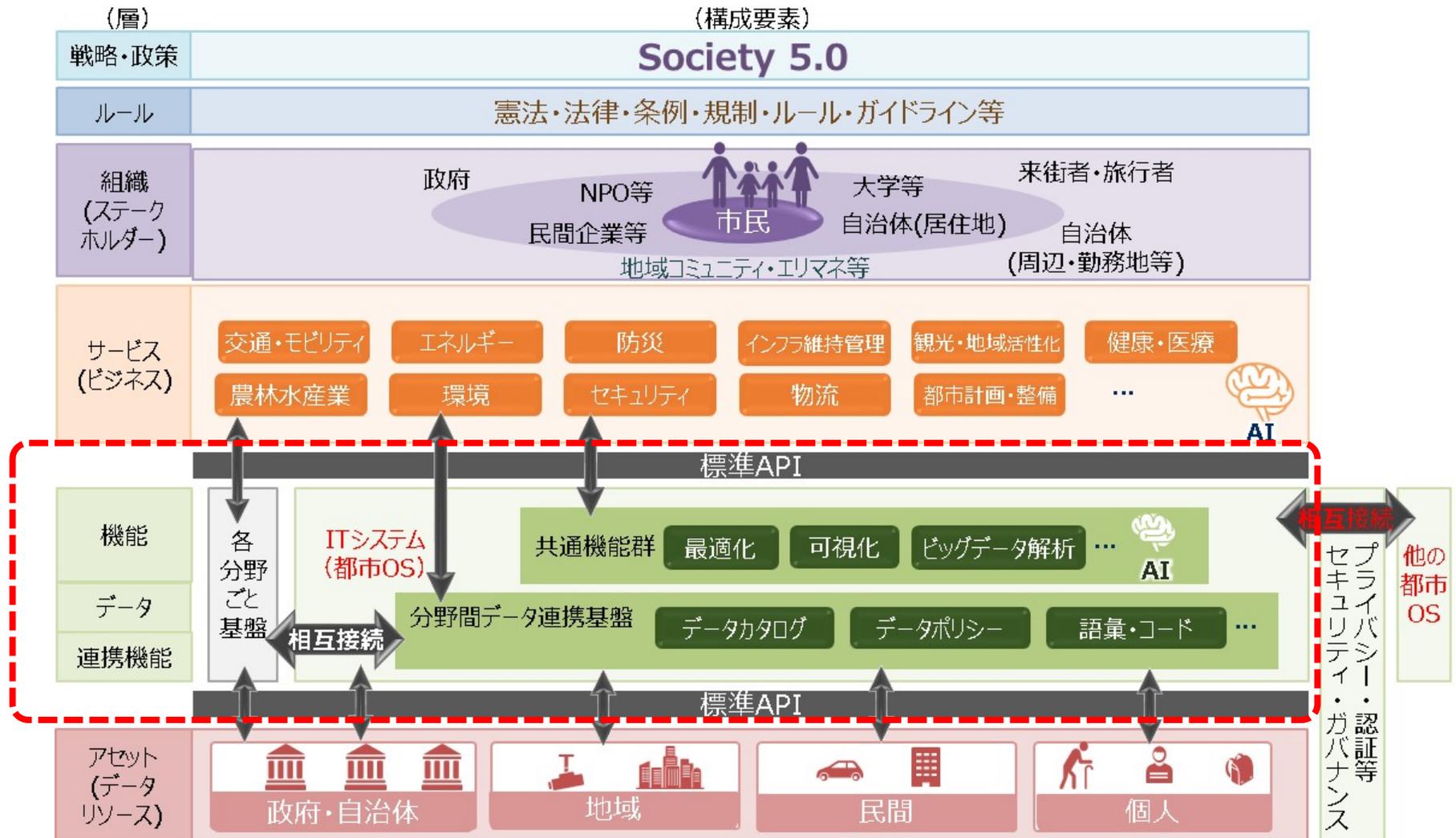
- ・分野横断的に様々なデータを取得・利活用
- ・先行都市におけるデータを利活用し他都市でもサービスを実現、地域間格差の解消



データの蓄積と利活用における相互運用性・拡張性の確保に向けた基盤設計が課題

スマートシティ共通アーキテクチャ（設計思想）

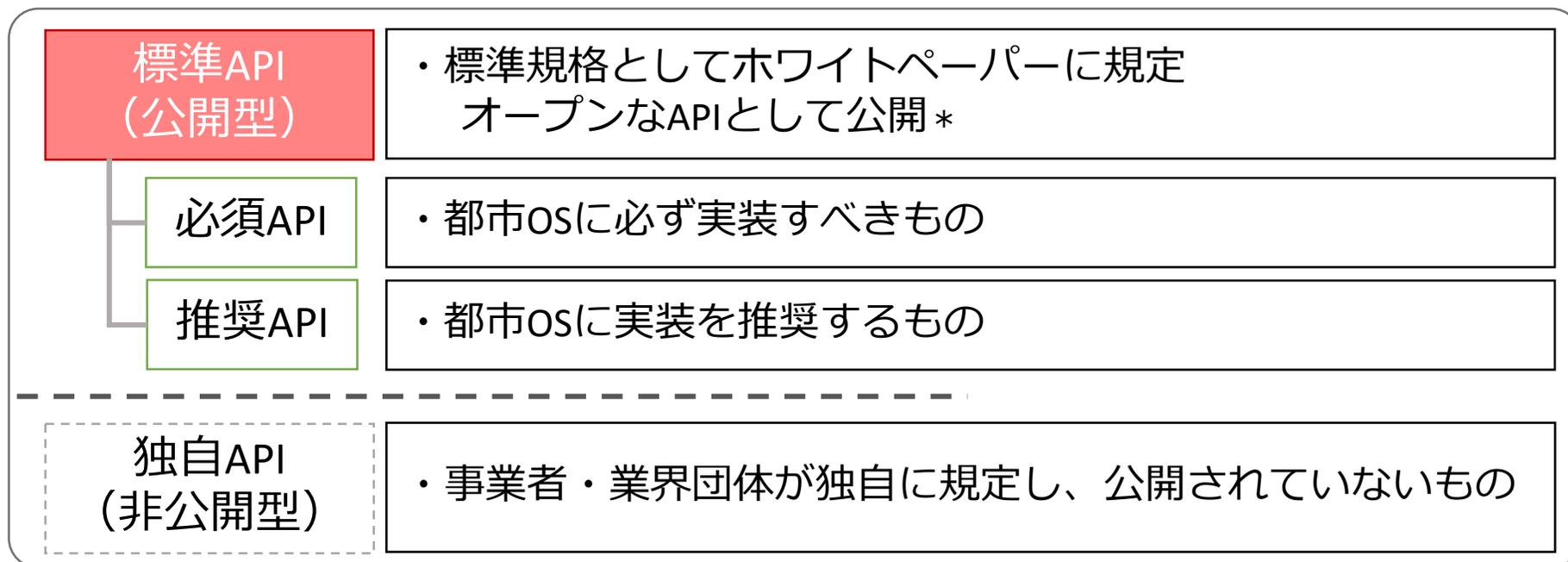
- 都市間でのデータ利活用の促進に向け、スマートシティにおけるデータの**構成要素を層別に整理**
- 本共通アーキテクチャを構築し、**標準APIの整備**をすることで各都市OSの構築を推進



(COCN2018年度プロジェクト最終報告「デジタルスマートシティの構築」を基に内閣府作成)

2019年度の重点実施事項

1. 共通アーキテクチャの構築と普及（ホワイトペーパー&ガイドブック）
2. 標準APIの定義（必須 / 推奨要件の検討）と運用、インセンティブの設計
3. 継続的に拡張・メンテナンスする組織の設立



* 生活の安全にかかわる情報や機微な情報等に関するAPIはアクセス可能なメンバーを限定することも検討

- 本年度構築の共通アーキテクチャをもとに、2020年度以降は国内実装や国際展開を加速

2019

2020

2021-2025

社会動向

G20大阪

G20サウジ

第1回WEFテクノロジーガバナンスサミット (GTGS)

大阪・関西万博 (2025)

第2回GTGS (2021)

国内取組

共通アーキテクチャ構築

アーキテクチャの協議の場を設置

モデル事業の採択

アーキテクチャをモデル事業に適用
スーパーシティ公募・採択

官民連携プラットフォームの設立・運営

会員の拡大

共通アーキテクチャの継続的拡張・メンテナンス

成功モデル横展開

国際協調

アライアンス設立
- ガバナンスの共通指針策定

アライアンス拡大
- 各都市の知見の共有

基本戦略策定
(経協インフラ)

海外官民協議会の設立・活動開始

共通アーキテクチャを世界とともに構築、海外連携拡大